1977 年 12 月 3 日第三種郵便物認可（毎月 18 回 1,2,3,5,6,7 の日発行）2016 年 9 月 1 日発行 SSKP 通巻 6411 号

SSKP 船橋障害者自立生活センター

2016 年 9 月

うえいぶニュース ㊸

〒 273-0005 船橋市本町 2-4-4 花島ビル 1F　TEL： 047-432-4554 ／ FAX： 047-432-4565
URL： http://www.cil-funabashi.org/　E-Mail： cil-funabashi@cil-funabashi.org

2016 年度定期総会を終えて

2016 年度の自立生活センターの定期総会が 6 月 26 日に開かれました。

当日は、委任状も含めて 43 名の出席があり、代表挨拶に続いて、船橋市役所障害福祉課の杉森課長から来賓としてご挨拶をいただきました。

続いて、小林健一理事を議長に選出して議事に入りました。議案の中で事業報告、決算報告、監査報告、事業計画、そして予算案がいずれも原案どおり可決承認されました。

次に、役員改選に移り、根岸理事の退任と平澤美千世理事の新任が承認され、すべての議事を終了しました。

なお、総会終了後、新しいメンバーの下での第一回の理事会が開かれました。その中で、新しく小林理事が自立生活センターの副代表兼事務局長に選ばれ、事務局次長に就任した小松直勝さんと共に事務局の仕事を担ってもらうことになりました。

新年度もフィールドトリップや講演会などの新しい企画が続きます。新しい事務局体制の下でフレッシュな活動が出来るように頑張りたいと思いますので、今まで以上に力強いご支援とご協力をお願いいたします。

理事就任

平澤美千世

この度、6 月 26 日の総会にて承認され、理事に就任することとなりました。1991 年に設立されてから 25 年。「重い障がいを持っていても、歳をとって身体の自由が奪われても、地域の中で生き生きと自分らしい生活をしたい」というのは、誰にとっても願いであると思います。人権として保障されるべきである「当たり前のことを当たり前にできる」社会を目指し、今まで尽力されて来られた皆様に敬意を表します。7 月 26 日には「相模原障害者施設殺傷事件」という戦後最大の死者 19 名、負傷者 26 名の大変、残虐で痛ましい犯罪がおきました。もとは、この施設の職員で、自ら志願して職に就いた人間が、何ということか、身体の不自由な方々を標的にするとは。日本全国が、深い悲しみに包まれ、私は無力感に苛まれました。「優性思想」という、人類の「悪質な遺伝」を淘汰し、「優良な遺伝」を保存することを目指す、人間の命に優劣をつける思想が、今もなお根深く存在していることに対して、強い憤りを覚えます。二度とこのような事件が起きることのないよう、再発防止の為の対策を、国がしっかりするよう注視していきます。船橋障害者自立生活センターの今後のご活躍の助となれますよう尽力致します。どうぞ宜しくお願い致します。

定期総会に参加して

亀田和子

私は、実際の事業活動には参加していない名前ばかりの会員です。ここ 4,5 年続けて総会に参加させていただいており、2016 年の定期総会にも参加させていただきました。最近は若い理事も何名か加わり、今まで培ってきた自立生活センターの運営が次の世代へと少しづつ継承しているように感じられます。若い人が参加していかなければ、活動も尻つぼみになっていきますので、よいことだと思っております。事業内容としては、難問がいろいろあるかとは思いますが、障害者福祉作業所 WAVE のさらなる発展を期待したいと思います。

私は専門が建築設計で、障害のある方が地域で生活するための環境の整備を仕事にしております。私にどんなお手伝いができるか分かりませんが、障がいのある方が地域で自立して生活していくための手助けができれば幸いと思っています。

代表のぼやき・・・番外編

～ 殺されてたまるか！ ～

この夏私は、持ち前の二次障害の悪化に伴う、生涯で２度目となる頸椎の手術を受けるために、３週間ほど入院生活を送る羽目になってしまいました。医療技術の進歩あってか、経過は比較的順調で、入院生活そのものは割とのんびりしたものでした。ところが入院して間もなく、とんでもない事件が起こってしまいました。相模原市の障害者施設で、大勢の障害者が殺傷された事件です。病室のテレビでその事件の様子や容疑者の供述内容などを聞いて、背筋が寒くなる思いをしていました。

報道によれば容疑者は、「重い障害を持つ人たちは生きている意味がないし、社会に負担を負わせるだけの存在なので、いなくなった方がいい」と考えたようです。私が背筋が寒くなったのは、実際に行動に移したり口に出したりしないまでも、心の底では容疑者と同じような考え方や価値観を持つ人が、少なからずいるのではないかと感じることがよくあるからです。容疑者はヒトラーを引き合いに出しているようですが、そんなに昔にまでさかのぼらなくても、現代の日本の政治家や文化人と呼ばれる人たちが、「抹殺しろ」とは言わないまでも、「生きて存在する価値が重度の障害者にはあるのだろうか」というような疑問を口にして、物議を醸すことが今でも時々あります。経済の論理や競争社会の考え方を突き詰めていくと、そのような結論に至ってしまうのかも知れません。でも、病気にしろ障害にしろ、自ら望んで持った訳ではなく、やむを得ない事情によって病気や障害と何とか折り合いをつけて生きているのです。にも関わらず、一方的な論理で決めつけて命を奪われたり、傷つけられたりしては、たまったものではないと思います。そもそも、人間が生きていて幸福か不幸かという答えは、第三者がとやかく言うような事柄ではなくて、一人ひとりの心の中で答えを出すものだと思います。

この原稿を書いている時点ではリオデジャネイロオリンピックの真っ最中で、続いて行われるパラリンピックも踏まえて、いろいろな企業のテレビコマーシャルにたくさんの障害者が登場しています。大げさに言えば、今まで一般のコマーシャルに、これほど障害者が出てきた時代はなかったと言っていいと思います。でも、そうした風潮と、上に書いた事件のギャップに、改めて愕然とします。果たして、世の中の多くの人の障害者に対する見方はどちらなのでしょうか。個人的にはコマーシャルに登場するほど華やかな存在にはなれないというやっかみも込めて、普通の人間として普通に見てくれることを願うばかりです。そして理不尽な理由で殺されたり、傷つけられたりすることがないように、心して残りの人生を過ごしたいと思います。

音楽の力

宮尾おさむ

筆者はこれまでに千住真理子、諏訪内晶子、神尾真由子という３人の女性奏者によるヴァイオリンを聴く機会があった。そして後まで記憶に残っているのは、千住さんではサラサーテのチゴイネルワイゼン、諏訪内さんではショーソンの詩曲、神尾さんではヴィヴァルディの四季であったが、それではその中で何が残っているかというと、諏訪内さんの詩曲である。

詩曲は、交通事故で夭折したショーソンの代表作とも言える曲だが、聴いていると胸の奥に沁みこんでくるような旋律があって、一瞬、我を忘れたのを憶えている。

問題は、それが曲そのものの特質にあるのか、それとも奏者の演奏技量によるのか、ということなのだが、そこは今も不明だ。もう 10 年から前の話だが、それを聴いたのは県の文化会館であった。会場は満員の盛況で、そういう機会に恵まれたのが初めてだった筆者は、この奏者はそんなに有名なのかと驚いたのだが、筆者にしてもチャイコフスキーコンクールの優勝者であることは知っていた。

そのコンクールの課題曲の一つが、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲だ。諏訪内さんも神尾さんも、この曲を弾いて優勝したのだが、私がその曲を耳にしたのは、日本が戦争に敗けて間もない頃で、知人から借りたＳＰレコードでであった。

確か 4 枚組のレコードだったという記憶があるが、プレーヤーも手で回すシロモノで、円盤の回転が遅くなると音が乱れてくる。慌ててプレーヤーの横に出ているハンドルを掴み、急いでそれを回したのを覚えている。

いずれにしても、流麗な音楽とは言えないものであったが、そこにあったのはチャイコフスキー以外の何ものでもなく、筆者がチャイコフスキーの虜になったのはその時からだ。

時代が変わってつい先日、市役所のロビーで生の演奏があり、サラサーテのチゴイネルワイゼン他を聴いた。奏者はまだ音楽大の学生であったが、チゴイネルワイゼンは力の入った好演だった。ところが、その前に演奏したクライスラーの「愛の悲しみ」がよくない。作曲したクライスラーが怒るような出来である。

すぐにわかったのが、一方が練習の成果であったのに対し、片方は練習不足だったということだ。練習が十分であれば「愛の悲しみ」も、本当に悲しくなるような曲に仕上がっただろう。そういう意味でも音楽の力は、偉大で自在であると思った。

コバケンのつぶやき　第２話

副代表就任のご挨拶

小林健一

皆さま、熱い夏に負けていませんか？体調には十分気を付けて、楽しい夏にしていきましょう。

さてタイトルにもある通り、なぜか私が副代表になってしまいました。といっても「やりたい」と思うから、杉井代表の「やってみないか」という問いかけに答えて、首を縦に振ったわけです。しかし、右も左も解らない私です。「まず何をしたらいいですか？」と聞いたところ、杉井さんからあった言葉は「少しずつ積極的にセンターの仕事を覚えて、私（杉井代表）を助けてほしい」ということでした。しかし「私は船橋に日常的に勤務することはできない」と言ったところ、「究極はセンターに関わりたいか、関わりたくないかだ」と言われました。もちろん、関わりたい気持ちに嘘偽りは絶対にありません。ピアカン実践の場も欲しいです。ずっと自立生活センターの思想に支えられて、私は生きてきました。私は、この大切な自分のルーツともいえる考え方が薄れていくことは怖いし、ありえません。自立生活センターの理念を基礎とした考え方を持つ、この組織に身を置いていたかったというのは紛れもない事実です。とは言っても、私が頻繁にセンターに行くことはできません。悩み抜いた末の私に、この自立生活センターの副代表になることを決断させた最大の理由は、いとも簡単なものでした。今まで自立生活センター思想を一から叩き込んでくれた杉井さんに恩返しするなら今が好機だと思ったのです。杉井和男氏、その人のそばにいて、助けられながらでも自分が学び取り、協力、実践していくことは無尽蔵のごとくあると思ったからです。しかしそのためには、私の依頼を聴いて、私の代わりにセンターで即戦力となって実行してくれる有能なパートナーが､私にとってもセンターにとっても必須であると思いました。そこで毎日勤務し、センターのことをよく見通せる人であると思える小松直勝さんが適役だと考え、事務局次長という役職を依頼したところ、快諾してくれました。これなら安心して、ゆっくりではありますが、私にもできると考えました。一つずつやることで少しでも代表を支え、代表が今まで大切にしてきた考えを継承しつつも、私たちなりの新しい風を吹かせることができると考えました。

その一つが今回新事業として提案させていただいている「フィールドトリップ　～みんなで外に出かけよう！！～」です。この機関紙 81 号にも参加者募集を掲載しましたので、奮ってご参加いただけますよう、よろしくお願いします。その他にも今年度の講演会は、「障害者差別解消法から半年」というテーマで基調講演とシンポジウムという形で、聞きごたえ、見ごたえと、参加し甲斐のある双方向の催しを目指し、鋭意企画中です。現在のところ 11 月ごろの開催を目途に、計画進行中です。こちらにつきましては詳細が出来上がり次第、会員の皆さんはもちろん、広く市民の皆様にも情報発信が行き届くようお知らせさせていただきます。是非ご参集のほどよろしくお願いします。さて、新しい風と言えば、前号から始まったグルメバトルも今後、力を入れていきたい紙面の一つでもあります｡なぜなら､グルメという切り口で船橋の地域をもっと深く知るきっかけになってほしいと願っているからです。つきましてはこの機関紙の読者の皆様からも「こんなおいしいお店が船橋にあるよ」という情報がありましたら、メール、Twitter よりどしどしお寄せ下さい。皆様からの投稿が集まりましたら、読者による投稿グルメバトルページを掲載したいと思います。何かわからないことがありましたら、気軽に当センターまでお問い合わせください。とにかくこれを読んでくださっている方々と、事務局スタッフや地域の方々が大いにつながり、センターを活用し盛り立てていただけることをお願いし、これからも私を含め事務局スタッフがセンターに新しい風を吹き込ませることをお誓い申し上げ、コバケンのつぶやき 2 を終わらせていただきます。

PS　目指せ！船橋障害者自立生活センター Twitter フォロワー 1000 人！！
皆さんのご参加お待ちしています。
船橋障害者自立生活センターで今すぐ検索！

ホームページ：http://www.cil-funabashi.org/
Twitter アカウント：@fil4554

初めまして、佐々木です

佐々木玲由

佐々木玲由（ささき　あきよし）といいます。

明るい性格で特にスポーツがすきです。野球を 13 年間教えていました。野球を見るのも好きです。特に中日巨人戦です。

体調が良ければ散歩に行ったりします。薬円台公園まで散歩に行きます。ついでに少年野球を見ています。今は自分が教えた愛弟子が子供たちを教えています。

仕事ではヘルパーをやっていました。訪問、特別有料サービス、居宅サービス、礎などをやっていました。最初の頃すごく苦労した記憶があります。特にオムツ替えに苦労しました。将来介護に復帰出来たら復帰したいと思っております。

普段はアロマオイル使ってリラックスをしていますし音楽ではロックを聴いています。ロックを聴くとリラックスします。

フィールドトリップ

～みんなで外に出かけよう !! ～

当センターでは新シリーズ企画として「みんなで外に出かけよう !!」を合言葉に、普段なかなか同じ地域にいても交流を持つことの少ない障害のある人たちで集まって「行きたいところに行こうよ。」「交流の場にしようよ。」というとても楽しい企画にしました。この企画を行おうとしたきっかけは、今まで私たちが力を入れてきたピアカウンセリングはどちらかというと気持ちをお互いに聴き合うことが中心でした。もちろんそれも大切なことですが、静から動へ自分たちで考え実際に行動する、今挑戦しようとする課題に対して障害のある人自身で主体的に考えていく習慣をつけていく機会があったらいいなという思いから、障害者自立生活センターでよく行われている自立生活プログラムの中のフィールドトリップの手法を用い考えた企画が、今回の「みんなで外に出かけよう !!」です。

楽しくなること間違いナシ !? の企画です♪

コンセプトとスタンス

(1) 障害のある人みんなが自分たちで考え、案を出し合い、行きたいところを決めて行きたいところに行く。
(2) 健常な方々にもサポートしてもらいながらみんなで仲良く楽しもう。
(3) 障害のある人もない人もこの楽しい交流の場を通して自分で決めて自分で実行することにより自分に自信を持とう。

今、決まっていること

(1) 9 月～ 3 月までの間に 4 回程度。（日帰りができる範囲。長くても丸一日）みんなで出かける。
(2) みんなでどこに出かけたいかを相談する。（企画会議）を 9 月 13 火曜日に船橋市の中央公民館４Ｆ 体育レクレーション室 13 時 30 分～ 16 時 30 分に予定しています。
(3) 事務局としては出かける日は平日を想定しています。
(4) その他解らないことは事務局まで気軽に相談してください。
参加費は原則無料。 定員先着 40 名 募集期間等はホームページおよび Twitter でお知らせします。
(5) 募集対象は、障害があり、自分で介助してほしい内容を表現できること。
介助の必要な方は自分で連れてくるか、当センターに相談して下さい。
(6) 基本的に集合場所までの交通費は自己負担でお願いします。
その他、企画内容によって異なりますが、自由行動時間中の飲食費は自己負担でお願いします。

ともかく少しでも気になったそこのあなた、まずは応募して下さいね。
電話、FAX、E メールで今すぐ応募 !!!

きっちゃんの源泉たれ流し

おいらとパソコンの因果なつきあい　しょの２

★初めてのパソコン＝ MSX の頃

そうしてアッという間に時は過ぎ、月日は流れ、無垢で純朴だったラジオ少年もいつの間にか大学を卒業し、大人になっていた・・・、いろんな意味で・・・。光陰矢の如し、少年老い易く学成り難し、君子危きに近寄らず、色即是空空即是色、などと申しまして・・・。

おいらが初めて接したパソコン（当時はマイコンと呼ばれていた）と呼ばれる文明の利器はMSX パソコンだった。MSX というのは 1983 年、アメリカのマイクロソフトと日本のアスキーが協力して推進したパソコンの共通規格で、松下、ソニー、東芝、日立、サンヨー、ヤマハ、ビクター、カシオ、キヤノン、京セラ、富士通、パイオニア、三菱といった日本の名だたる大手家電メーカーがこぞって参入した。85 年に MSX2、87 年に MSX2+、90 年に MSXturboR が発表されるが、おいらがフォローしたのは MSX2 までだった。ちなみに MSX の MS は「マイクロソフト」、X は「未知数」を表す、などと言われていた。

で、この MSX パソコンでおいらが何をしたのかというと、パソコン通信、BASIC やマシン語などの打ち込み（キーボードからの入力）、簡単なプログラム作り、ワープロ、ゲームなどだ。

パソコン通信については、当時京都の方にあった「リンクス」という草の根 BBS に入っていた。どういう経緯でこの BBS に入ったかは忘れてしまったが、映画に関する掲示板に出没して「ラストエンペラー」「ブレードランナー」「黒い瞳」「グッドモーニング・ベトナム」やスピルバーグの「太陽の帝国」などについて他のメンバーとやりとりをした覚えがあるから、87 年か 88 年頃のことではないかと思う。この BBS は他愛もないおしゃべりサークルという感じだった。
またアスキーネットにも入会したが、こちらはレベルが高く、掲示板に採用されていた「ハイパーノート」というシステムがよく分からず、もっぱら ROM、つまりリードオンリーメンバー（自らは書き込みをせず、他のメンバーの書き込みを読むだけのメンバー。しばしば嫌われる対象となった。）だった。うろ覚えだが、障害者関連の掲示板で「わかん」というハンドルネームの人が「漫画に出てくる障害者像」みたいな書き込みを連載していて、興味深く読んでいたのを覚えている。当時の書き込みというのはひらがなとかカタカナが多く、漢字混じりのメッセージは少なかった。漢字混じりの書き込みをすると、その人に対して「漢字を読めない環境の人もいるので配慮してほしい」と注意されることもあった。そんな時代だった。

その頃、おいらは MSX の専門誌で「MSX マガジン」という月刊誌を購読していたが、この本の巻末には BASIC やマシン語で書かれたゲームやちょっとした実用プログラムのリストが掲載されており、その打ち込みをやっていた。一字一句間違わずに打ち込まなければ正常に動作しないため、けっこう気を使った。入力が終わったらまず最初に保存する。保存せずに実行してしまうと、何かエラーが出たときプログラムに戻せなくなるものもあったからだ。これに気づくまでに幾たび人知れず枕を濡らしたことか。保存は初期の頃はデータレコーダーというものを使っていた。これはカセットテレコを小型にしたような機器で、10 分、15 分、20 分といった長さのデータ用カセットテープを入れてピーピーガーガー保存するという代物だった。今から考えるとホントよくまあこんな悠長というか原始的な方法でしこしこカッタルイことをしていたものだと思う。たとえば 10 分テープの長さのプログラムであれば保存にリアルタイムで 10 分かかっていたのだ。そのあげく最後に書き込みエラーが出た日にゃあ、いっぺんにやる気が萎え、床に仰向けに寝っ転がって手足をバタつかせて駄々をこねることもしばしばあった。のちにフロッピーディスクに初めて接したときには、なんて便利なんだろう、と感激したものだ。そんな時代だった。

当時おいらは本業の翻訳以外に近所の子供たちを対象に塾みたいなことをやっていたが、BASIC を応用して英語の教材を作ったこともあった。教科書の単語だけでは足りないので、船や飛行機などの乗り物や動物や果物や野菜などの絵を描いておき、スペースキーを押すと次々と変わっていくというプログラムだった。単純なものではあったが、BASIC で絵を描くという、今から考えると、まー、なんてご苦労さん、というようなことをやっていたものだ。今ではほとんど忘れてしまったが、SCREEN、LINE、CIRCLE、COLOR といった命令を組み合わせて作っていたと思う。あるいは英語の教科書に出ている練習問題を単にパソコンの画面上に移しかえただけというプログラムを作って子供たちにやらせたこともある。

ワープロ機能については、当時隆盛だったワープロ専用機の方が使いやすかったので MSX ではそれほど使い込んだという記憶がない。そんな時代だった。

いちばん使う時間が長かったのはゲームじゃないかと思う。シューティングとかパズルアクションとかが好きでよくやった。おかげで動体視力がビンビン鍛えられた。仕事の合間の息抜きにやるので、いつでも始められていつでも終わりにできるような単純なゲームがよかったのだ。とはいえ「信長の野望」とか「維新の嵐」とか「イース」などのシミュレーションや RPG の長尺物もいくつかやっており、それなりにおもしろかったが。

で、どんなゲームをやったか、MSX 関連の WEB サイトを参考にして思い出すがままに列挙してみると、グラディウス、グラディウス 2、パロディウス、沙羅曼蛇（サラマンダ）、ツインビー、レイドック、ザナック、ロードランナー、魔城伝説、FLAPPY、王家の谷、夢大陸アドベンチャー、けっきょく南極大冒険、信長の野望、etc。こうして見てみるとコナミのものが多いが、コナミのゲームはバランスがよく、けっこう楽しませてもらった。コナミのゲームソフトは MSX の普及発展の大きな牽引力になっていたと思う。

つづく

WAVE のうごき

7 月		8 月	
5 日（火）	ピアカン集中講座	23 日（火）	認定審査会
16 日（土）	出張ピアカン	27 日（土）	理事会

会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いただいていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようにお願いいたします。

年会費は、正会員が 3,000 円、賛助会員が 5,000 円、団体が 10,000 円となっております。

同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、カンパなどを送っていただく際に、便利なように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

ご案内・お知らせに関する問合せ・申込先

NPO 法人 船橋障害者自立生活センター
障害者福祉作業所「WAVE」

〒 273-0005 千葉県船橋市本町 2-4-4
花島ビル 1F

TEL：047-432-4554 ／ FAX：047-432-4565

E-mail：cil-funabashi@cil-funabashi.org

URL： http://www.cil-funabashi.org/

カンパのお礼

前号以降，以下の皆様より温かいカンパをいただきました。
厚くお礼申し上げます。（順不同）

高木恒雄様　田尾幸三様
松平義親様　和田恭輔様
山の井様

発行所　東京都世田谷区砧6－26－21
身体障害者定期刊行物協会
頒価 100円